



**競技を臨む緑の中のトレーニング室**  
 一般開放により、日常的に利用されるトレーニング室はアルプススタンド下にカフェと共に配置、フィールドや森を臨む開放的な計画とします。

**防災への配慮**  
 体育館に近いメインスタンド下、は炊出しや災害支援車両の寄り付きやすい計画とします。また、広域防災拠点である松本空港との連携を考慮し、災害時はアウトフィールドを支援拠点のひとつとして機能させます。

**設備計画**  
 雨水、雪溶水をフィールド散水に再利用したり、木質ペレットを燃料として用いることで、ライフサイクルコストを低減します。抑制防災設備として設ける非常用発電機をナイター照明に利用することで、照明費用を約12%低減します。

**雨天走路は、大会時の選手のウォーミングアップだけでなく、一般開放でも使いやすいよう、眺めのよいテラスを併設したメインスタンド2Fに計画します。**



既存樹木を活かしながら、卓越風を遮る防風林を整備します。

**アルプススタンド (1F/カフェ、トレーニング室)**

**雨天走路**  
 車寄せには車いす駐車場と冬季除雪範囲削減のため数台分の駐車スペースを確保。  
 車いす利用席をコンコース階直近、カテゴリー毎に車いす席を設置。

大会時のVIPルームとしての活用や日常時の一般開放など多目的な使い方を想定した会議室や、観客の休憩スペースとなるテラスを眺めのよい3Fに計画します。



**南スタンド**  
 用器具庫 (B1F)

**メインスタンド (2F/雨天走路)**

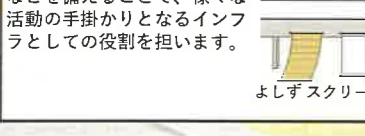
**雨天走路**  
 2F コンコースはメインスタンド上部から入退場が可能です。コンコースや雨天走路は夏場、風通しの良い、観客が涼める休憩スペースにもなります。



**アウトフィールド**  
 ミニ航空フェアにてセサナを展示中

**バックスタンド**  
 大屋根

**雨天走路**  
 観客と選手、大会運営者、来賓者の動線が交差しないゾーニングとします。車寄せと車椅子利用者用駐車場をコンコースまで引き込むことで、雨にぬれずにアクセスできます。更衣室は様々な利用者に一般開放もできるような風通しと日当たりのよい独立した配置とします。



**アウトフィールド**  
 夜の野外演劇に向けて準備中

**バックスタンド**  
 用器具庫 (B1F)

**雨天走路**  
 選手/運営用 EV と階段の仕上げは耐スパイク仕様とし、雨天走路からフィールドまでスパイクのままアクセスできます。

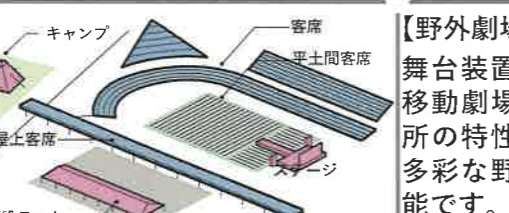


### 3つのフィールドの活用計画

**【国体】**  
 ひな壇に固定席、芝生に仮設スタンドを設営し、2万席を確保、アウトフィールドはイベント利用できます。

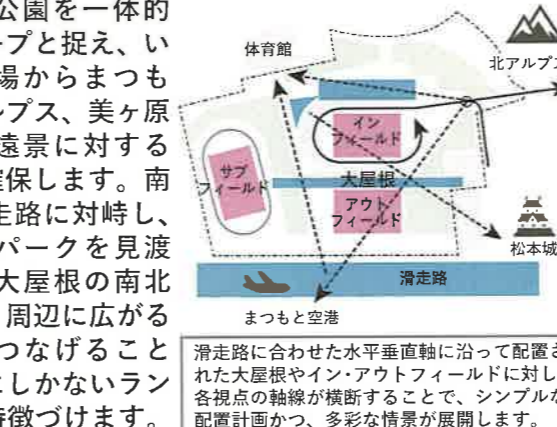
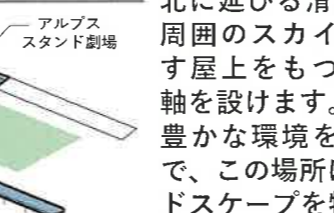
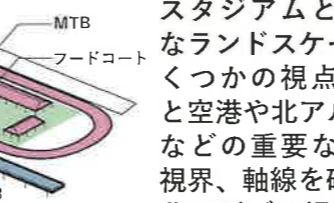


**【音楽フェスティバル】**  
 インフィールドを平土間、B1F 諸室を控室にすることでスタジアム全体を音楽フェスの会場にできます。

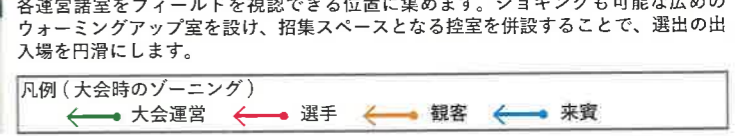
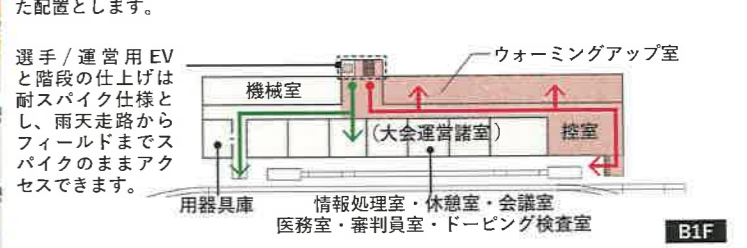
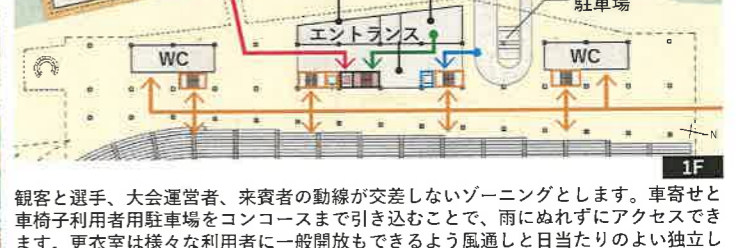
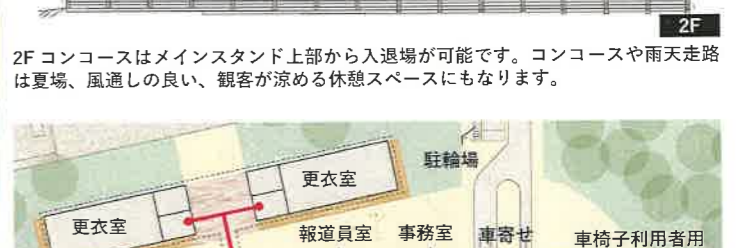
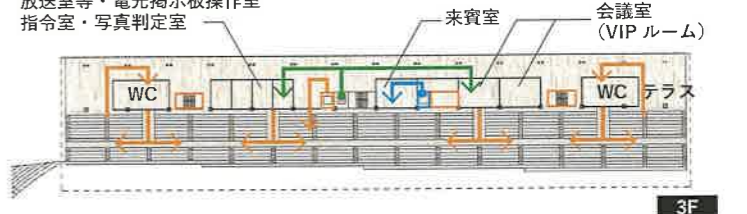
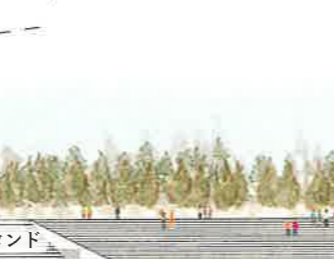


**【アーバンスポーツ】**  
 人気の高まっているアーバンスポーツイベント等の誘致は、収益を上げる一つの手立てと考えます。

**【野外劇場】**  
 舞台装置を乗入れた移動劇場など、各場所の特性を活かした多彩な野外劇場が可能です。



バックスタンドを低く抑えることでメインスタンドから空港と美ヶ原への視界を確保。



### 外構計画

スタジアムと公園を一体的なランドスケープと捉え、いくつかの視点場からまつもと空港や北アルプス、美ヶ原などの重要な遠景に対する視界、軸線を確保します。南北に延びる滑走路に対峙し、周囲のスカイパークを見渡す屋上をもつ大屋根の南北軸を設けます。周辺に広がる豊かな環境をつなげることで、この場所にしかないランドスケープを特徴づけます。



### 構造計画

スタンド下部は、部材の反復性からPC架構とし、フレームのみの構成とすることで計画の自由度を高めます。床や階段はPC床版を用い、仮設部材を低減します。屋根は10mピッチで梁を配置した片持ちの鉄骨造、20mピッチのPC柱から斜めの吊り材で梁を支え、部材断面を軽減、軽量化、片持ち梁のバックスターは鉄骨の斜め柱で、水平方向の安定を保ちます。

